今週の一枚：精霊様の祠（ほこら）　　**2012年4月6日　バンコクで撮影**

タイに来て、「タイに来たんだ」と実感する風景がある。
いたるところに掲げてある王様（プーミポン国王）の穏やかなお顔の写真、点在しそびえ立つ黄金色のお寺、路地に立ち並ぶ屋台、そしてビルや、ホテルの前や、民家の庭先に祭ってある祠（ほこら）である。
この祠、仏教に関係あるものとずっと思っていたが、これは間違いであると知った。
タイの宗教は仏教ではあるが、それ以前から精霊信仰が存在していたのだ。
万物には霊が宿り、その精霊が人々の生活を守る、というものだ。
祭っているのは、その土地の精霊
写真は、散歩中に見た、ホテルの入口に祭られた祠。
そこでは、メイドさんが、裸足になって大理石の床をせっせと拭き掃除をしていた。
カメラを向けると快く「はいポーズ」微笑みの国だけにあって笑顔が実にいい。
掃除を終え、花も取り替えた後、お供えの水や飲み物を置いた。
そして、これら全部にストローをさしたではないか。
人間らしい神様、そして、それに向き合うタイの人々の優しい心使いが見えるようだった。